

令和元年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(宝木地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

<p>令和元年度 第6回 まちづくり懇談会《宝木地区》実施結果報告書</p>
--

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《宝木地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和元年10月25日（金）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 宝木地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 44人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，北市民活動センター所長，道路建設課長，広報広聴課長

5 懇談内容

- (1) 地域代表あいさつ 宝木地区まちづくり協議会 会長
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所 管 課
1	ネットワーク型コンパクトシティ計画について	交通政策課 技術監理課 都市計画課
2	ゲリラ豪雨等に対する宝木地区の溢水箇所における対策について	河川課 下水道建設課 道路保全課 工事受付センター
3	宝木団地はどうなるのか，今後の計画について	住宅課

(4) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	(仮称)大谷スマートインターチェンジについて(1) 河川の溢水について	道路建設課 河川課
2	(仮称)大谷スマートインターチェンジについて(2)	道路建設課
3	(仮称)大谷スマートインターチェンジについて(3)	道路建設課
4	市道1378号線について	道路保全課

5	(仮称) 大谷スマートインターチェンジについて (4)	道路建設課
6	(仮称) 大谷スマートインターチェンジについて (5)	道路建設課
7	(仮称) 大谷スマートインターチェンジについて (6) L R Tの整備について	L R T企画課 道路建設課

(5) 来賓あいさつ

市議会議員 渡辺 通子 氏
天谷 美恵子 氏

(6) 市長謝辞

■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	ネットワーク型コンパクトシティ計画について
-----	-----------------------

宇都宮市西部に位置する宝木の地は、西には東北道、中央を宇都宮外環状線が開通し、住民の足となる公共交通機関も宇都宮駅を発着として、駒生車庫・細谷車庫間線、鹿沼線、大谷線、団地線、ろまんちっく村線など縦横に路線バスがあり、交通の便も恵まれている。これにより近接地域を含め大型商業施設、医療施設、そして保育所・幼稚園等子育て施設、老人ホームや介護施設などの福祉施設もほぼ満たされている。

また、近くに山や大きな河川もなく豪雨による山崩れや大きな水害等による被害のおそれなく住みよい住宅地域である。

このように、大変住みよい環境にある宝木の地においても少子高齢化は着実に進んでおり、単身生活者・高齢者の一人暮らし・老々世帯、加えて賃貸集合住宅が次々建立し、近所・隣り同士の支え合いが薄れつつある。また、最近全国各地にみられるような通学児童が交通事故や犯罪に巻き込まれる事件等を考えると、何らかの施策・対策を講ずることも必要な時代になってきている。

宝木地区まちづくり協議会は、こうした地域や社会情勢を踏まえ、平成30年から2か年度をかけて「宝木まちづくり地域ビジョン」策定作業を進めており、まもなく完成となる。

ビジョンでは、6つの柱を策定し、その一つに「地域で支え合う 高齢者に温かいまちづくり」を掲げ高齢者が自立した生活ができる環境づくり活動計画を策定した。

市では、この様な少子高齢化社会を見越し2050年を見通した長期的なまちづくり構想として、ネットワーク型コンパクトシティを進めており、当宝木の地域においても、将来のまちづくりがどうなるのか、関心が高まっている。

宝木地区にも昨年その構想の説明をいただいた。その中で、通称山崎街道を経て病院をめぐる路線バス構想・新里街道の路線バスの増便等あげられ期待をしている。

一方、地区の将来像として、「公共交通を使いながら、病院や買い物に便利な幹線バス路線沿線などで快適な生活」と示されているが、地域住民が最も期待している市の都市計画道路の山崎街道以北の中丸野沢線の計画地域、即ち宝木2丁目地域は現在も住宅開発がどんどん行われているのが現状である。このような中でネットワーク型コンパクトシティを計画が本当に実現できるのか、都市計画道路とネットワーク型コンパクトシティの計画は一体的に進めてほしいが、今後の具体的な取組を伺う。

更に申し上げれば、山崎街道のバス路線等可能なものは早期に実現してほしいが、実現の見通しについて伺う。

回答	所管課：交通政策課、技術監理課、都市計画課
----	-----------------------

【市長】

本市が目指すネットワーク型コンパクトシティは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、中心部や各地域に設けた拠点が、鉄道、LRT、バスなどの交通ネットワークで結ばれ、将来にわたっても持続・発展できる都市の実現を目指している。

宝木地区は、平成26年に策定した「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」において、都市拠点圏域として位置づけており、中心部と郊外の地域拠点とをつなぐ幹線道路や幹線バス路線の沿線に位置し、古くから住宅地が形成され、スーパーや病院などの様々な生活に便利な施設が充実するなど、非常に利便性が高く、大変住みやすい地区であると認識している。

ネットワーク型コンパクトシティの計画の実現についてであるが、宝木地区においては、幹線バス路線である新里街道や大谷街道沿いに、居住を誘導する区域を設定し、マイホーム取得補助などの誘導策を実施しながら、緩やかな居住の誘導などに取り組み、より利便性が高く、暮らしやすい環境を維持していけるようなまちづくりに取り組んでいるところである。

このような中、宝木地区内の幹線的な都市計画道路であり、新里街道や日光街道を結ぶ中丸野沢線などを含めた道路整備については、今後の大谷スマートインターチェンジの開通後の交通状況の変化を踏まえ、地区内の道路ネットワークの充実による交通の円滑化などの観点から、ネットワーク型コンパクトシティの計画の推進と一体的に検討していく。

また、道路ネットワークの充実と併せて、高齢者をはじめとした誰もが利用しやすい公共交通ネットワークを構築することが重要であると認識している。

このため、本市では、JR宇都宮駅西側へのLRT導入を見据えたバス路線再編の検討を始めており、宝木地区を通るバス路線については、平成29年および30年に実施した地区別説明会において、「駒生営業所から山崎街道を運行し、栃木医療センターや済生会宇都宮病院を経由しながらJR宇都宮駅へ向かう路線」の新設や「新里街道を運行する路線」の増便などを将来の公共交通ネットワークイメーajの中で地域の皆様にお示ししたところである。

このネットワークイメーajについては、JR宇都宮駅西側へのLRT導入時を想定したものであり、「山崎街道を運行するバス路線」についても、LRT導入と合わせて新設することを想定しているが、「新里街道を運行するバス路線」など、ネットワーク型コンパクトシティの形成に資する幹線バス路線のサービスの充実については、バスの運転手不足などの課題の解決に向けてバス事業者と協議しながら、LRTの導入を待たずに実現できるよう取り組んでいく。

今後とも、便利で暮らしやすく持続的に発展できるネットワーク型コンパクトシティの形成に取り組んでいく。

■地域代表意見 2 (要旨)

テーマ	ゲリラ豪雨等に対する宝木地区の溢水箇所における対策について
-----	--------------------------------------

宝木地区内には唯一の河川、新川がある。この新川は、今から150年以上前の江戸時代末期、農業用水としての開削がこの川の歴史の始まりであり、様々な歴史と多くの人々の願いが込められた「宝木用水」である。

柿木幼稚園から南方にある川がカーブしているところは、極端に川幅が狭くなっており、少しの雨でも、大雨が降った時のような状態が毎回出現している。今年の6月18日の大雨の際にも、住居に床下浸水の被害が出ており、周辺では土のうを積んで対応している状況が続いている。

また、先日の台風19号の大雨の際には、新川の氾濫により、道路が冠水し、床下浸水になる家屋が地区内に散見された。

更には、平成22年に西が岡小学校近くに12,800平方メートルの調整池を作っていたが、土砂の堆積や雑草の繁茂などにより、毎年その深さが浅くなっている状況である。

今後も、気候の変動から異常気象が起きる可能性もあり、将来を含めて、岸のかさ上げや調整池の掘り下げの整備など、宝木地区の溢水箇所における対策はどのようになっているのか伺いたい。

回答	所管課：河川課，下水道建設課，道路保全課，工事受付センター
----	--------------------------------------

【市長】

新川の溢水対策についてであるが、ご指摘の箇所や西が岡小学校東側などにおいて、集中豪雨時などに溢水被害が発生していることから、平成22年度に、宝木町2丁目地内に調整池を整備するなど、溢水被害の軽減を図ってきた。

また、コンクリート板柵による護岸工事を実施するとともに、護岸のかさ上げや土のう積み、現状の河川断面を最大限に活かすための土砂のしゅんせつなど、さまざまな手法による溢水被害の対策を実施してきたところである。

地域の皆様においても、宅地内からの雨水の流出抑制に向け、雨水貯留・浸透施設の設置に取り組んで頂いている。

しかし、御指摘のとおり、調整池の上流箇所において、集中豪雨時等による溢水被害が解消できていない状況であり、地域の皆様にはご心配をおかけしている。

このような中、当地区においては、雨水による浸水被害を軽減するため、県営宝木住宅より下流において、新川の水の一部を駒生川へ放流する雨水幹線の整備を進めており、山崎街道から下流の整備が完了していることから、現在、未整備区間となる山崎街道から県営宝木住宅の区間において、整備ルートや整備手法の検討を行っており、令和5年度の工事完了に向けて取り組んでいるところである。

また、この雨水幹線を整備したのち、地区内の河川整備を実施する予定であり、当地区の溢水被害の解消につながるものと考えている。

引き続き、これらの整備に努めるとともに、地域の皆様のご協力を頂きながら、宅地

内での雨水貯留・浸透施設の設置促進に取り組むなど、新川の適正な維持管理に努め、
溢水被害の軽減に努めていく。

■地域代表意見 3 (要旨)

テーマ	宝木団地はどうか、今後の計画について
------------	---------------------------

宝木団地の2階建ての入居者は減少しており、寂しい限りである。少子高齢化は、この団地にも押し寄せている状況になっている。

これらのことを含め宝木団地の再生をどのように進めるのか。また、このような現状を踏まえ、市の宝木団地の今後のあり方について具体的な計画があるならご教示願いたい。

回答	所管課：住宅課
-----------	----------------

【市長】

団地再生に向けては、まず、耐用年数を経過したC、D、E—2街区の2階建住棟を順次用途廃止するほか、耐用年数を経過していないA、B街区の5階建住棟については、高齢者やベビーカーを利用する子育て世帯等、多様な世代が快適に暮らすため、室内のバリアフリー化や、若い世帯の入居を促すため、床をフローリングに変更する洋室化工事などを行うとともに、耐震補強工事を予定している。

こうした中、宝木団地の再生を見据え、平成26年度より新規入居者の募集を停止しているところであり、また、宝木市営住宅における一部の空き部屋については、用途廃止を予定している住棟から円滑に移転していただけるよう、リフォーム修繕等を行い、移転先等に活用するなど、現入居者の居住環境の向上を図っているところである。

次年度以降、除却工事に向けた作業等が始まり、ご迷惑をおかけすることもあると思うが、今後とも、宝木市営住宅が多様な世帯が安全・安心、快適に暮らせる魅力ある団地となるよう、団地再生事業を着実に推進していく。

■自由討議（要旨）

発言 1	（仮称）大谷スマートインターチェンジについて （1） 河川の溢水について
-------------	---

（仮称）大谷スマートインターチェンジの計画について、今までの経緯のなかで、地元住民からは、建設の要望はしていない。

先日、テレビで放映されたが、スマートインターチェンジについては殆どの市民が理解していない。

鹿沼と宇都宮インターチェンジがあるにも係らず、税金を使って作る必要があるのか。東京方面から来る車は鹿沼インターチェンジから産業道路を使う。仙台方面から来る車は、宇都宮インターチェンジから宇都宮北道路を使う。

関東地区における将来交通量推計は2020年から2040年は1割ほど減少するという。この点を考えて、今後は正をしてほしい。

現在、1,000名ほどの建設反対の署名も集まっており、（仮称）大谷スマートインターチェンジ建設計画地のとちぎ健康の森から特定の農地を使う計画に地元住民は納得していない。なぜなら、東北自動車道との接点の高低差など周辺環境の配慮等に欠けており道路構造上も危険であるからである。

なぜ、この場所に（仮称）大谷スマートインターチェンジを建設するのか伺いたい。

また、台風19号の溢水について、大谷と鹿沼に分岐する辺りが溢水地帯となっている。溢水しない手法を是非考えてほしい。

回答	所管課： 道路建設課， 河川課
-----------	------------------------

【市長】

都市間の競争が激しくなっている昨今、魅力ある街を作っていくには定住人口と市外からの交流人口を如何に増やしていくかである。今、宇都宮市は新幹線、北関東自動車道及び東北自動車道という、交通の要所になっている。

大谷は宇都宮市が特に重要としている観光資源であり、市内外から多くの方が訪れている。（仮称）大谷スマートインターチェンジを作ることで、市外の観光客の方にも大谷の魅力を感じて頂きたいと考えている。（仮称）大谷スマートインターチェンジは、市として大きな財産であることから理解をいただき、協力を賜りたい。

河川の溢水対策については、専門家の意見を伺いながら、整備を行うこととしている。今後も河川の改修は、安全面を配慮しながら進めていきたいと考えている。

発言 2 (仮称)大谷スマートインターチェンジについて (2)

自宅の後ろが、(仮称)大谷スマートインターチェンジの建設予定地になっており、数十メートルの壁が建っている。

自宅の後ろに壁が建つことで、台風等の影響で決壊する恐れや、騒音もあり建設地付近の住民は危害を被る。

住宅地が分断される経路図になっているが、市長はご覧になっているか。建設されると住むことができなくなるので、計画している経路図の変更をしてほしい。

回答 所管課：道路建設課

【市長】

経路図については、拝見しており、また現場も見ている。

建設地付近の住民が犠牲になること、不便になることで被害が出る時は、補償等もあると思うので、個別に対応させていただく。

今後の地元説明会において、改めて伺いたい。

発言 3	(仮称)大谷スマートインターチェンジについて (3)
-------------	-----------------------------------

(仮称)大谷スマートインターチェンジについて、関心と期待が高まっているが、今後の計画について伺いたい。

回答	所管課：道路建設課
-----------	------------------

【市長】

これまで、地元説明会を4回ほど実施してきた。そのなかで、計画ルート等の事業状況を説明させていただいた。

今年度については、10月下旬に地元説明会を予定していたが、台風19号の影響もあり11月中旬に開催をしたいと考えている。

今後、(仮称)大谷スマートインターチェンジを進めていくにあたり、用地買収に取り組んでいくが、用地の進め方については、地元の皆様の協力も必要となってくることから、地元説明会等で詳しく説明させていただく。

また、2019年9月に自治会長を対象に事業の説明会を行ったが、そのなかで「周辺道路環境について」や「建設することにより10メートルの壁ができるのか」などの意見もあったことから、今後の地元説明会においては、そのようなことも含め整理したうえで、説明し事業に取り組んでいく。

疑問があるものは、説明させていただき対応してまいりたいと考えている。

発言 4	市道1378号線について
-------------	---------------------

宇都宮環状線から東に入る市道1378号線であるが、「とりせん」建設予定地のところに来ると道が狭くなる。この道を拡幅するか、もしくは信号機をつけるなど市で対応することができるか。

また、センターラインを設置してほしい。

回答	所管課：道路保全課
-----------	------------------

【市長】

市道1378号線の信号機については、警察との協議になるので、伝えさせていただく。

【道路建設課長】

市道1378号線のセンターライン設置については、今年度中に対応する予定である。

発言 5	(仮称)大谷スマートインターチェンジについて (4)
-------------	-----------------------------------

これから車を運転できない高齢者が増え、税収が減少するなかで、(仮称)大谷スマートインターチェンジを建設するのか疑問である。

道路建設課が、4年前に「防音壁を作るなど綿密に計画している」と言っていたが、現在は「防音壁は作らない」という。また、計画路線も当時から15メートルほど移動しており、自宅に近いので死活問題である。

「スマートインターチェンジにおいて、不便になることで被害が出るときは、補償等もあると思う」と言うが、補償問題が起こらないように対応してほしい。

回答	所管課：道路建設課
-----------	------------------

【市長】

市民のために「安全・安心」ということは欠かすことができない大きな問題であり、皆様のご意見を基に実施していかなくてはならない事業であるので、一人一人ご意見を伺いながら対応をしていきたいと考えている。

発言 6	(仮称)大谷スマートインターチェンジについて (5)
-------------	-----------------------------------

スマートインターチェンジ周辺道路整備については、大谷街道、宇都宮環状線など幹線道路があり、その他に中丸野沢線などの市道がある。その幹線道路と市道の整備の見通しについて伺いたい。

回答	所管課：道路建設課
-----------	------------------

【道路建設課長】

大谷街道については、渋滞解消を図るため、20メートル幅に拡幅し、主要交差点への右折レーンを設置していく。

中丸野沢線についても、今後拡幅し、車の右左折ができるレーン及び歩道を設置していきたい。

(仮称)大谷スマートインターチェンジを利用する車については、道路標識を設け、幹線道路に誘導していく。これから、整備を進めていくなかで、危険な箇所などについて、地域の方と意見交換をしながら、対策していきたい。

発言 7**(仮称)大谷スマートインターチェンジについて (6)
LRTの整備について**

LRTは今後、西側に延伸し、大通りを通すことで公共交通を重視しているが、それとは矛盾するように、(仮称)大谷スマートインターチェンジからは車を乗り入れてくる。矛盾しているのではないか。

また、LRTが西側延伸することで、大谷の方まで通す予定があるようだが、大谷街道は片側一車線であることから、宇都宮環状線までなのか。

回答**所管課：LRT企画課，道路建設課****【市長】**

LRTの西側延伸については、まだ正式に決まっていないが、計画では桜通りまでの3キロメートルが計画となっている。そこから、更に延伸するかは、バス事業者、警察及び国や県などと協議をしていくことになると思う。

これからの高齢化社会において、車の運転ができない方が増えてくる。公共交通を整備することで、持続可能なまちづくりを形成していきたい。

また、LRT整備については、LRTだけを整備するのではなく、公共交通と車が共存していくことも重要であると考えている。車が走りやすい道路整備も行いながら、多くの企業が大型車や公共交通を使うことで経済効果を高めていきたい。